



「ひらかれた在宅医療」の推進

由仁町における住民参加型フォーラムの実践報告

2026年2月28日
第3回在宅医療Congress

国民健康保険由仁町立診療所
所長 島田啓志

由仁町の現状

医療アクセス低下と独居の不安

▶人口：約4,500人

▶高齢化率：44%

▶課題：

独居・高齢者世帯の**急増**

▶現状：

地域交通の**縮小**

夜間・緊急時の移動手段不足

医療アクセスは**低下**



夜間に具合が悪くなっても、
タクシーも利用できない

地域を支える道内郡部唯一の「三刀流」



- 1.入院
一般19床を有する有床診療所
- 2.救急
救急告示診療所（24時間対応）
- 3.在宅
在宅緩和ケア充実診療所
「断らない在宅医療」

診療実績2025年：訪問診療2,265回 往診393回 お看取り29名

「契約者」から「地域全体」への在宅医療

Before



【従来の在宅医療】

- ▶ 契約した患者のみに提供される閉じた仕組み
- ▶ 制度の狭間にいる独居高齢者の「突発的な体調不良」に対応できない

After



- ▶ 地域全体のセーフティネットとして再定義
- ▶ ALSOKと連携「診療所駆けつけサービス」等により、必要な人が利用できる仕組みに

住民参加型フォーラムの戦略

1

地域住民の巻き込み

医療職による一方的な講義ではなく、住民との「共創」（プロセス）を重視

2

ターゲット

「働く世代」と「若者」

高齢者だけでなく現役世代へのアプローチ

3

専門用語を避ける

物語（ナラティブ）で語る

「由仁びとクラブ」（住民有志）との協働



実践① 寸劇・音楽とダンスによる「聴衆との一体化」



重いテーマ（看取り）を音楽やユーモア（ダンス）で「温かいもの」へ
転換。若者が参加しやすい「イベント」としての空気感を醸成

実践② 町在住ラッパー JOKEMICによる対談

▶ JOKEMIC
農家ラッパー・僧侶ラッパー

▶ 訪問診療利用者のご家族
▶ ケアマネジャー

専門職の説明より**対話**



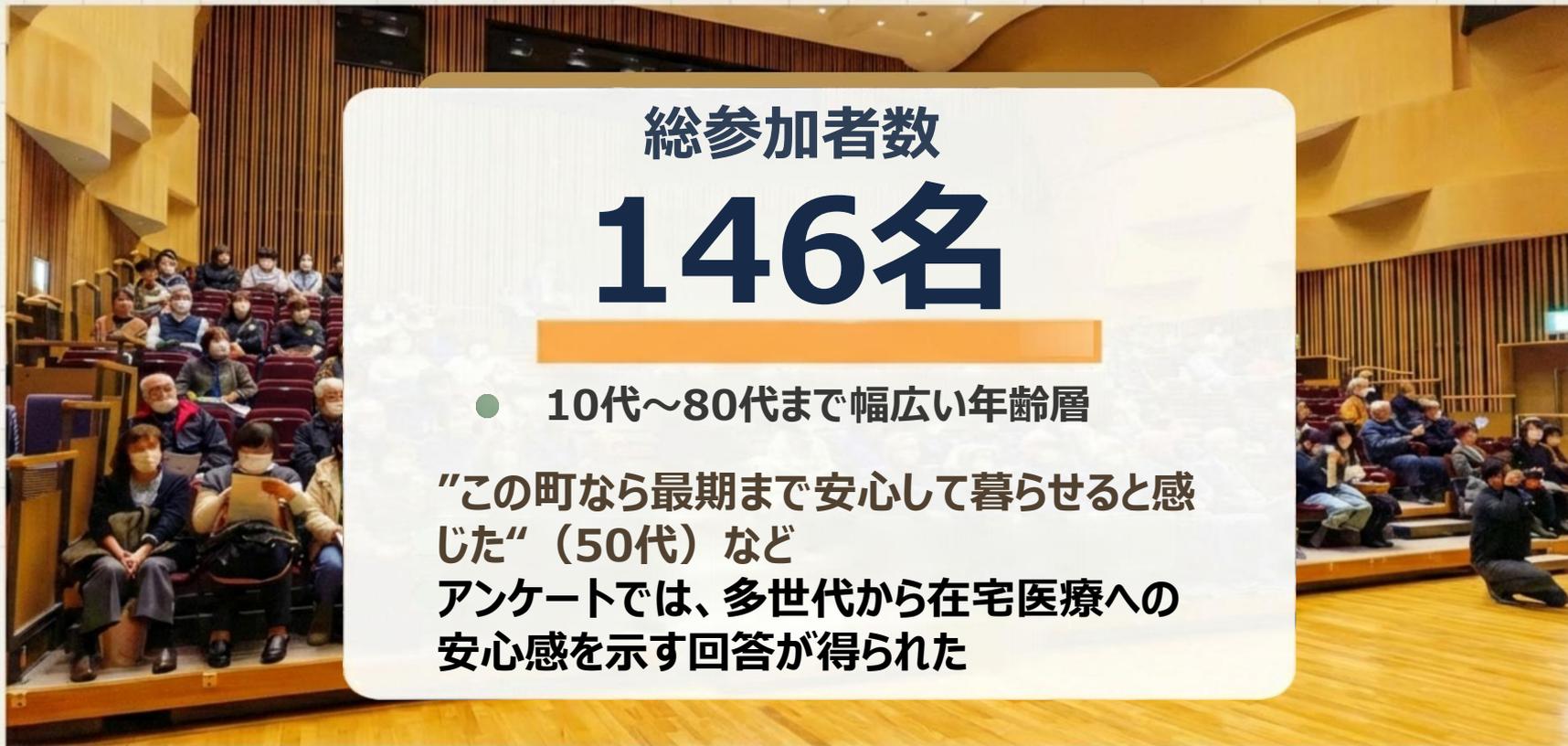
結果：多世代・多職種の動員

総参加者数

146名

- 10代～80代まで幅広い年齢層

“この町なら最期まで安心して暮らせると感じた”（50代）など
アンケートでは、多世代から在宅医療への
安心感を示す回答が得られた



結語：地域包括ケアの新モデルを目指す



▶「由仁モデル」の目指すところ
地域全体の要介護者を対象した
医師・看護師・介護職の
24時間の駆けつけサービス

▶住民主体
医療者・行政だけでなく地域住民とともに
「最期まで、由仁びとでいよう」

フォーラムが推進の絶好の機会に
ありがとうございました